

2-8 冷媒（フロン）再生技術

・GHPのメンテナンス対応時に、再生冷媒の活用を検討すべく、現場で冷媒（フロン）の再生処理を行い、サービス対応用として使用できる技術

背景

モントリオール議定書により冷媒用フロンの規制がありR22フロンは2020年に生産終了となった。また、代替フロンであるR410A冷媒についても今後、段階的に生産量が削減される見込みとなっている。今後、入手困難や価格高騰が想定される。

課題

現場で回収した冷媒（R22、R410A、R407Cなど）を現場で再生し、品質の良いものを再利用したいが、現在販売されている再生機は、冷媒量が20kgの場合、回収と再生処理で約2時間かかり修繕作業に時間がかかる。再生品としての品質も蒸留精製並みが理想



(写真)
アサダ(株)製再生装置
エコサイクルオーロラⅡ

チェック項目

- 回収・再生時間が短い
- 再生冷媒の品質が確認されている
⇒蒸留精製方式並みの品質が望ましい